

平成24年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 国語(書写) (1/1枚目)

調査の観点	発行者名	東京書籍	大日本図書	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
1 内容 (1)発達段階に即している (2)興味・関心を引き出す配慮 (3)本市の学力の実態へ配慮		(1)指導事項が明確で発達段階に即している。 (2)半紙サイズの毛筆手本は3つ。「考えて書こう」という思考を記入する欄がある。 (3)本市の実態に合っている。	(1)指導事項が明確で発達段階に即している。 (2)毛筆の手本が縮小版のみ。書き方についての説明は丁寧である。同じ文字で毛筆楷・行書両方の手本がっているものが多い。 (3)本市の実態に合っている。	(1)指導事項が明確で発達段階に即している。 (2)半紙サイズの毛筆手本が5つ。小さい手本には、ほとんど筆順が記されている。毛筆平仮名の手本は文字サイズが大きい。3年間で1冊にまとめられている。 (3)本市の実態に合っている。	(1)指導事項が明確で発達段階に即している。 (2)半紙サイズの毛筆手本は3つ。硬筆の書き込みが多くできる。 (3)本市の実態に合っている。	(1)指導事項が明確で発達段階に即している。 (2)半紙サイズの毛筆手本は1つ。毛筆を中心としながらも、硬筆の要素を導入した展開をしている。小さい手本には、筆順がほとんど記されている。 (3)本市の実態に合っている。	(1)指導事項が明確で発達段階に即している。 (2)半紙サイズの毛筆手本は1つ。3年間で1冊にまとめられている。 (3)解説が少ない点から、本市の中学生の実態に対してやや高度である。
2 構成及び分量 (1)内容の組織配列、発展的記述 (2)発達段階に配慮した分量 (3)基本事項の押さえと補充教材 (4)発展教材への配慮		(1)(2)楷書 楷書仮名 行書 行書仮名の配列。分量は適量。毛筆行書が中心で楷書の取り扱いは少ない。 (3)毛筆・硬筆の基本事項は押さえてある。 (4)書初めは1年大サイズの楷書1、小行書1、2年大行書1、小楷書1、3年大行書1、小楷書1。 学習指導要領3年次の「身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に書く」は、教材は多いが、書き方の解説が少ない。	(1)(2)楷書 楷書仮名 行書 行書仮名の配列。分量は適量。硬筆行書の書き込みが多い。書初めの手本は縮小版である。 (3)毛筆・硬筆の基本事項は押さえてある。 (4)3年に古典の文字をまねる教材が2つある。書初めは各学年小サイズ楷・行書1つずつ。 学習指導要領3年次の「身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に書く」は、教材は多いが、書き方の解説が少ない。	(1)(2)楷書 楷書仮名 行書 行書仮名の配列。1冊の構成のため、発展的な教材は少ない。 (3)毛筆・硬筆の基本事項は押さえてある。 (4)書初めは1年大サイズの楷書1、小楷書1、2年小楷書1、3年大行書1、試筆2。 学習指導要領3年次の「身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に書く」は、教材は少ないが、書き方の解説は丁寧である。	(1)(2)楷書 楷書仮名 行書 行書仮名の配列。分量は適量。単元構成で硬筆と毛筆を関連づけて学べるようにしている。毛筆の手本での解説は不十分。 (3)毛筆・硬筆の基本事項は押さえてある。 (4)書初めは1年大サイズの行書1、小楷書1、2年大行書1、小楷書1、3年大行書1、小楷書1。 学習指導要領3年次の「身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に書く」は、教材は少ない。書き方の解説も少ない。	(1)楷書 楷書仮名 行書 行書仮名の配列。分量は適量。毛筆を中心としており、運筆、筆順なども明記されている。視覚的にもわかりやすい。 (3)毛筆・硬筆の基本事項は押さえてある。毛筆補充教材が1年で4つ、2・3年で6つについている。 (4)書初めは1年大サイズの楷書1、小行書1、2年大行書1、小行書1、3年大行書1、小行書1。 学習指導要領3年次の「身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に書く」は、教材は少ない。書き方の解説も少ない。	(1)(2)楷書 楷書仮名 行書 行書仮名の配列。毛筆の手本が少ない。資料は豊富。 (3)毛筆・硬筆の基本事項は押さえてある。 (4)書初めは1年大サイズの行書1、小楷書2、2年大行書1、小楷書1、小行書1、3年大行書1、小楷書、小行書1。 3年に臨書の教材が3つある。 学習指導要領3年次の「身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に書く」は、教材は多いが、書き方の解説がやや少ない。
3 表記及び表現 (1)生徒にとって読みやすい表現 (2)印刷、写真等の見やすさ		(1)大小(小は解説用)2つの毛筆手本があり、使いやすいが、解説が少ない。 (2)写真は豊富で見やすくきれいだである。	(1)大小(楷・行書)2つの毛筆手本。大を縮小版にし、解説の量が多く丁寧である。 (2)見開きで毛筆、硬筆が確認できる。資料を含め写真は少ない。	(1)大小(小は解説用)2つの毛筆手本があり、使いやすい。筆使いの解説が丁寧である。 (2)資料を含め写真は少ない。	(1)大小(小は解説用)2つの毛筆手本があるが、解説が少ないものもある。小さい手本は文字バランスを重視した説明が多い。 (2)写真は見やすくきれいだである。	(1)大小(小は解説用)2つの毛筆手本があり、使いやすい。1年次の運筆の部分の解説は写真も使い詳細にわたっている。 (2)写真は見やすくきれいだである。	(1)大小(小は解説用)2つの毛筆手本はあるが、解説が非常に少ないため、中学生にとってやや高度である。 (2)イラストや写真が多い。見やすくきれいだである。
4 使用上の便宜 (1)全体が構成見渡せるよう配慮 (2)課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮 (3)印刷、装丁への配慮 (4)地域性への配慮		(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)「考えて書こう」等思考の書き込みを行う欄を設定している。「生活に広げよう」の教材は日常生活に即している。教材ごとに「学習を振り返って」という自己評価欄がある。 (3)(4)特筆すべき点はない。	(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)各単元の学習のねらいが明記されている。学年毎に学習のまとめがある。 (3)(4)特筆すべき点はない。	(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)教材ごとに「ダルマに目を書き入れる」という自己評価欄がある。全体的に毛筆が中心の構成であり、硬筆の課題がやや少ない。 (3)(4)特筆すべき点はない。	(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)課題への取組を「考えよう・話し合おう」から始めることで、生徒自身の気づきから取り組んでいけるように設定されている。資料編は日常生活に即している。 (3)(4)特筆すべき点はない。	(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)教材ごとに「振り返ろう」という自己評価欄がある。手紙や年賀状など生活にも使用できる課題が、学年に応じて配置されている。 (3)(4)特筆すべき点はない。	(1)目次で全体構成が確認できる。 (2)「広げよう」の教材は日常生活に即している。 (3)(4)特筆すべき点はない。
5 総合所見(重点調査項目) (1)硬筆の内容について		平仮名、片仮名の一部に筆順が記載されている。フェルトペンの教材が多い。直接書き込みできる量は少ない。	平仮名、片仮名の一部に筆順が記載されている。直接書き込みできる量が多い。	平仮名、片仮名に筆順の記載はない。直接書き込みできる量が多いが、楷書は少ない。	平仮名、片仮名に筆順記載はない。直接書き込みができる量が多い。	平仮名、片仮名の大部分に筆順が記載されている。直接書き込みができる量は少ない。	平仮名、片仮名の一部に筆順が記載されている。直接書き込みができる量は少ない。
(2)伝統文化に関する取り扱い		六書、書体の変遷について解説あり。	六書、書体の変遷について解説あり。	六書、書体の変遷について解説無し。資料は少ない。	六書、書体の変遷について解説あり。	書体の変遷について解説あり。	書体の変遷については簡単な解説あり。臨書の教材がある。
(3)その他		3年次にノートの効果的な書き方がある。教科書左上隅に漢字から平仮名への変化が分かるコマ送りがついている。	毛筆手本に独特の字体のものがある。	2年用の大きな書初め見本がない。	単元構成で硬筆と毛筆を関連づけて学べるようにしている。	漢字一覧表は、部首別である。	資料にノートのまとめ方、付箋の活用方法がある。